

NOMADS OF THE NORTH

from Mongolia to Siberia

北の遊牧民

モンゴルからシベリアへ

2004. 7. 17 (土) ▶ 9. 26 (日)

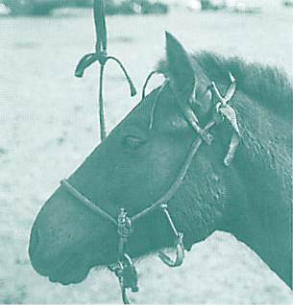


- ◆休館日 9月:月曜日(9/20は開館), 9/21(火)
(7/13(火)–8/31(火)は無休です。)
- ◆開館時間 7・8月 9:00–17:00, 9月 9:30–16:30
- ◆観覧料 一般 450(360)円
高校生・大学生 150(120)円
小学生・中学生 70(40)円
※()内は10名以上の団体料金



主催：北海道立北方民族博物館

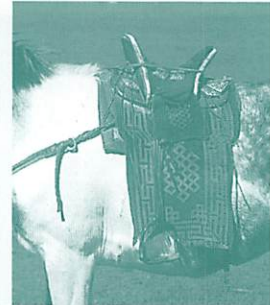
協力：野外民族博物館リトルワールド、日本・モンゴル民族博物館、京都嵯峨芸術大学附属博物館
石井智美氏、大島 稔氏、呉人徳司氏、西村幹也氏、思 泌夫氏、阿比留美帆氏



◀ウマの装具(モンゴル/2002年)



◀馬頭琴(モンゴル/日本・モンゴル民族博物館蔵、京都嵯峨芸術大学附属博物館写真提供)



◀ウマの鞍(モンゴル/2002年)

▼トナカイの鞍(エベンキ/中国/野外民族博物館リトルワールド蔵)

北の遊牧民—モンゴルからシベリアへ NOMADS OF THE NORTH

from Mongolia to Siberia

モンゴルの草原では、5種類の家畜—ヒツジ、ヤギ、ウシ、ウマ、ラクダ—を飼育し、乳や肉、毛皮などの畜産物によって生活してきました。大型の家畜は荷物や人の運搬にも使われます。



◀ウシの放牧(モンゴル/2001年)



北方針葉樹林(タイガ)では、狩猟とトナカイ遊牧が並行しておこなわれ、トナカイは、人や荷物の移動・輸送手段として利用されています。また、トナカイの乳や肉は食用にされ、袋角は漢方薬の原料として売られています。

▼乾燥させたトナカイの袋角(エベンキ/中国/野外民族博物館リトルワールド蔵)

▼投げ縄でトナカイを捕まえるコリヤーク(ロシア/1996年・大島稔氏撮影)



▲トナカイの荷駄鞍(ツァータン/モンゴル/当館蔵)



トナカイに乗るツァータン(モンゴル/2004年)

シベリアのツンドラでは、大規模なトナカイ遊牧がおこなわれてきました。トナカイには橇を引かせ、人や荷物を運ばせました。乳搾りはあまりおこなわれず、もっぱら肉が食用として利用されてきました。



モンゴルからシベリアに至る遊牧文化をたどり、日本には馴染みの薄い遊牧社会における生活様式、人と家畜との関係を紹介します。

関連事業

- 講習会「モンゴル・ゲルを建てよう」 7/3(土) 10:00-12:00
- 講演会「草原とツンドラの遊牧民」 7/18(日) 13:30-16:00
講師：石井智美氏(酪農学園大学)・呉人徳司氏(東京外国語大学)
- 講座「特別展解説会」 7/18(日) 16:00-16:30
- 講習会「モンゴル風蒸餃子「ボーズ」を作ろう」 7/31(土) 10:00-11:30
講師：多化瑠氏・韓淑琴氏・左紅英氏(北見工業大学大学院・留学生)
- 日本博物館紀行「日本・モンゴル民族博物館」 8/21(土) 10:00-11:30
講師：金津匡伸氏(同館館長)
- 講習会「皮でつくる小さなトナカイ」 9/11(土) 10:00-11:00
14:00-15:00

▼トナカイ毛皮製帽子(コリヤーク/ロシア/当館蔵)



表写真(上)屠殺のために集められたトナカイ群(エベン/ロシア/2001年・大島稔氏撮影)／(左・上段左から)トナカイを柵に追い込む(ツァータン/モンゴル/2004年)、トナカイ橇(コリヤーク/ロシア/2003年・大島稔氏撮影)、モンゴルの移動式住居「ゲル」(モンゴル/2002年)／(下段左から)ヒツジの放牧(モンゴル/2001年)、トナカイの乳容器(ツァータン/モンゴル/当館蔵)



お申し込み・お問い合わせ先